

よそものの霧 自前の霧

Data

湖面面積：19.2km²（長軸6.75km、短軸3km）
湖面標高：海拔351m（周囲を海拔500～700mのカルデラ壁が取り巻き、湖面との比高は150～350mに及ぶ）
水深：最深211.4m（平均137.5m）
注入河川：なし
排水河川：なし

摩周湖宣言

本日ここに集まった摩周湖シンポジウム参加者は、摩周湖や周辺環境の保全に向けて以下宣言します。

- 1.我々は、かけがえのない摩周湖の美しさを恒久的に維持させていくために、摩周湖を中心とした周辺地域の環境保全に全力を挙げて取り組み、環境と調和したライフスタイルの実現を目指します。
- 1.我々は、摩周湖が北海道遺産に選定されたことを郷土の誇りとし、これを契機として、摩周湖を含めた郷土の宝を守り、後世に引き継いでいく精神を育んでいくためにも、摩周湖がユネスコ世界遺産に登録されるよう地元のみならず、全国の多くの摩周湖ファンとともにそのための活動を行っていきます。

平成13年11月18日

摩周湖シンポジウム参加者一同



●お問合せ先

弟子屈町商工観光課観光振興係 Tel.01548-2-2191
弟子屈町企画振興課企画振興係 Tel.01548-2-2191

「よそものの霧」と呼ぶ霧は暖流と寒流がぶつかる釧路沖で生まれ、南風に運ばれて内陸に入り込み釧路湿原、根釧原野を経て摩周湖へたどり着く。

「自前の霧」は気温と湖水の冷たさの差が大きいときに発生する。観光シーズンの5月

8月に多い。展望台から見ると、カルデラ壁を霧が伝い下りる様子や、湖面を覆う霧の向こうに摩周岳を望む、雲上からのような景観など、その都度違った表情が見られる。

冬の顔は「霧氷」。氷点下20度を超える厳寒のなかで霧が発生し、風がないときに木の枝に咲く。しかし、その氷は繊細で、日が当たると10分余りで消えてしまう。

青く澄んだ湖水は、1931年の観測で透明度41・6メートルを記録し世界一を誇った。最近では30メートル前後だが、それでも世界屈指だ。

湖に顔を出す小さな中島。その昔、稚内の方にいた首長が殺され、孫を抱いて逃げた老女が孫を見失い、捜し歩いた末に摩周湖で寝込みそのまま島になった——などと伝えられる。

弟子屈町は摩周湖をはじめ屈斜路湖、硫黄山、川湯温泉と観光資源に恵まれている。昨年度、122万人の観光客が訪れた。宿泊客はこのうち46%で「5割台に乗せるのが当面の目標」（伊藤昌行・同町企画振興課課長補佐）という。

同町は今年度初めて、昨年5月発足した町おこしグループ「摩周湖世界遺産登録実行委員会」（桐木茂雄会長、200人）に85万円を助成した。同委員会は勉強会を2年間積み重ね、摩周湖をユネスコの世界遺産に加える運動を始めた。

同委員会は昨年11月「北の大地からの世界遺産」をテーマにシンポジウムを開催。町民との意見交換会を毎月開き、今月20日、摩周湖のごみ拾いをする。11月には「こどもサミット」を開催。世界遺産の先輩、屋久島（鹿児島県）白神山地（秋田、青森県）から中学生を迎える。

同委員会は今年8月、摩周湖展望台に通じる道路の車両乗り入れ禁止、電気バスの運行、展望台付近のレストハウスの山ろくへの移転、摩周湖博物館の設置、ごみの減量とリサイクルなどを同町に提言した。

車両乗り入れ禁止は、市街地と川湯温泉地区に駐車場を造り博物館やレストラン、キャンプ場を併設する構想と一体化している。その経済効果を24億円と試算した。

同町は同委員会と協力、摩周湖に関する資料、研究データの収集を行い「町民は摩周湖の専門家」を目指している。「作るものがここにあり」。同委員会のポスターが町中に張り出されている。